

# まめーる（北陸産大豆振興協議会メルマガ第13号）

平成22年11月発行

発行者：北陸産大豆振興協議会事務局 北陸農政局生産経営流通部農産課豆類振興係  
TEL076-263-2161(内線3318) 076-232-4302(直通)

## - 目次 -

1. 「食を核とした地域活性化支援事業」について - 公募は12/8（水）まで -
2. 第39回 全国豆類経営改善共励会にぜひご参加ください！
3. 【レポート】北陸農政局「消費者の部屋」展示について

## 1. 「食を核とした地域活性化支援事業」 - 公募は12/8（水）まで -

### 事業の背景

地域を活性化するには、それぞれの地域の特色ある資源を活用し、地域が一体となって取り組むことが効果的で速効性があります。

この場合、ご当地グルメ等に見られるとおり、地域の資源である「食」を核とした取組や、商売施設（道の駅等）・滞在型集客施設等と連携して商品やメニュー開発を行う取組など、「食」を核とするとともに、単に一次産業の振興のみならず地域が一体となった地域興しのような発進力のある取組が効果的であり、大きな経済効果が期待できます。

### 事業の公募締め切り

平成22年12月8日（水）17時

地元産大豆を使ったご当地グルメで地域興しに取り組みたい！とお考えのみなさん、詳しい情報については農林水産省ホームページをご覧ください。

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/soushoku/101118\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/soushoku/101118_1.html)



## 2. 第39回 全国豆類経営改善共励会にぜひご参加ください！

第39回（平成22年度）全国豆類経営改善共励会の募集が始まっています。この共励会では、生産の向上や経営改善を図りながら、実需者ニーズにも対応する先進的な生産者を表彰しています。近年は、生産コスト低減を図る栽培管理、排水対策や適期防除、また実需者対応や「地産地消」を意識した取組などが評価ポイントの1つとなっています。

他の模範となる農家、集団のみなさまの多数の参加をお待ちしています。

参加申込の締切； 平成22年12月24日（金）

参加申込先； 以下、各県事務局までお願いします。

新潟県 農林水産部 農産園芸課 (025-280-5296)

富山県 農林水産部 農産食品課 (076-444-3283)

石川県米麦改良協会 [JA全農石川県本部米穀課内] (076-240-5335)

JA福井県経済連 指導販売部 生産指導課 (0776-27-8256)

( 北陸ブロックのこれまでの受賞者の概要については北陸農政局ホームページをご覧ください)

<http://www.maff.go.jp/hokuriku/seisan/daizu/kyoreikai.html>

## 第39回(平成22年度) 全国豆類経営改善共励会のお知らせ

食料・農業・農村基本計画に基づき、食料自給率の向上を図る上で重要とされる豆類の生産を大幅に拡大するためには、生産性の向上のみならず、経営規模の大型化による他産業並みの所得の確保、実需者・消費者との連携による需要に見合った生産、加工による高付加価値等の取組を推進し、国際的な穀物需要の動向や国の行う生産・流通・消費対策に対応した生産性、商品性の高い豆類生産の定着を図ることが重要です。  
このため、全国豆類経営改善共励会では、特に経営改善の面から先進的で他の範となる豆類生産農家及び生産集団を表彰するとともに、その成果を広く紹介します。

### ○ 参加申し込み締め切り

平成22年12月24日(金)

※ お申し込みは裏面下の各県事務局までお願いします。

### ○ 応募区分

1 大豆経営の部 2 大豆集団の部 3 小豆・いんげん・落花生等の部

※ 黒大豆等特定用途大豆を含む。

### ○ 参加資格

次の要件を全て満たす経営体又は集団であること。

1 原則として過去3年間以上、豆類を作付けた実績があること。ただし、経営面積が1ha以上であること。

2 出品豆類の作付面積が次の基準を満たしていること。

① 大豆経営の部 家族経営(個人・法人)1ha以上、共同経営(任意・法人)3ha以上

② 大豆集団の部 3ha以上

③ 小豆・いんげん・落花生等の部

a) 経営の部 家族経営(個人・法人)：10a以上、共同経営(任意・法人)30a以上

b) 集団の部 30a以上(黒大豆等特定用途大豆は、経営の部の家族経営は30a以上、経営の部の共同経営及び集団の部は1ha以上)

※ なお、出品面積は、出品豆類の作付面積のすべてとし、豆類生産と加工を別々の農業者または農業者で構成する組織が行い、契約により両者が結びついている場合は、共同で募集することもできます。

3 原則として過去1か年以内に本共励会の表彰を受けていないこと。

### ○ 表彰

全国審査会において特に優秀と認められた方々には、農林水産大臣賞をはじめ、各賞を授与します。

なお、北陸ブロック審査会において優秀と認められた方々には北陸農政局長賞を授与します。

### ○ スケジュール

期 日	主要行事
平成22年12月24日(金)	県共励会事務局への参加申し込み締め切り
平成23年1月14日(金)	県共励会事務局からブロック共励会事務局への参加申し込み締め切り
1月21日(金)	ブロック共励会事務局から全国共励会事務局への参加申し込み締め切り
4月15日(金)	(県共励会事務局において審査を実施し、) 優秀な経営及び集団をブロック共励会事務局へ推薦
4月22日(金)	(ブロック共励会事務局において審査を実施し、) 優秀な経営及び集団を全国共励会事務局へ推薦
5月20日(金)	全国審査会
6月22日(水)	全国表彰



## 前回(第38回[平成21年度])の全国豆類経営改善共励会における 北陸管内の受賞者の方々

### ～全国表彰～

#### 【大豆農家の部】田中 勝彦 氏 (富山県入善町)

大豆作付(エンレイ)・・・30.8ha、単収・・・253kg、上位等級(1,2等)比率・・・56.7%

- ・地元集落だけでなく他の複数集落の大豆作も積極的に引き受け、水稲と大豆を基幹とする水田作経営として発展。
- ・若い後継者は機械の知識が豊富であり、一連の作業を正確に効率よく行うため、またほ場の排水性を高めるため、畦立同時施肥播種機やロータリーカルチを独自の工夫により自作・改良。
- ・大型の汎用コンバイン導入により、適期の一斉収穫が可能となり、しわ粒や汚損粒の防止等、品質向上に貢献。また、麦跡の作付けも積極的に引き受け、大豆単作の圃場と播種時期を分散することにより成熟期を分散し、適期収穫に努めている。
- ・農薬の適正使用及び栽培履歴簿の記帳を徹底、GAPの取組実践を行い、実需者が安心して消費できる大豆栽培を実施。

【農林水産大臣賞 受賞】



#### 【大豆集団の部】アイシーコマツファーム(石川県小松市)

大豆作付(エンレイ・フクユタカ・東山213号)・・・14.9ha、単収・・・238kg、上位等級(1,2等)比率・・・55.1%



- ・水稲+大麦+大豆の2年3作体系の集落経営体であり、23年2月の法人化が決定。
- ・畦立同時施肥播種機により安定した苗立ちを確保し、中耕培土は適期に必ず2回実施。前作の麦稈、粉砕した初穀などにより土づくりにも取り組む。
- ・省力化の視点から、ダイレクトシーダーによる狭畦密植栽培に取り組む。県の奨励品種候補である「東山213号」は長葉で狭畦栽培でも受光面積を稼げるため、栽培実証試験を県と連携して行う予定。
- ・全国レベルでの販売を考慮し、豆腐用として実需から評価の高いフクユタカを地域で最も早く導入。栽培契約をしている地元豆腐製造業者のもとに納入し、その豆腐を用いて試食会を実施。

【全国農業協同組合連合会長賞 受賞】

### ～北陸ブロック表彰～

#### 【大豆集団の部】福戸地区生産組合(新潟県長岡市)

大豆作付(エンレイ、あやこがね)・・・30.5ha、単収・・・273kg、上位等級(1,2等)比率・・・96.6%

- ・大型機械導入による大豆・大麦作業の効率化及び福戸地区の生産調整100%達成を目的として平成9年4月に設立。平成23年度までの法人化について現在検討中。
- ・基本技術の徹底と作業班体制により、適期作業が実施できるよう工夫。地力維持のため、収穫後に土づくり肥料を散布するほか、雑草対策及び病害虫防除を徹底。また、しわ粒発生軽減を目的として、LPコート肥料の試験などにも取り組む。
- ・効率的な機械の利用やJAの共同乾燥調製施設等の利用により、コスト低減に努めている。
- ・地元実需者からのニーズに対応し、JAを介してあやこがねの契約栽培を実施。

【北陸農政局長賞 受賞】



### 全国豆類経営改善共励会

主 催：全国農業協同組合中央会・全国新聞情報農業協同組合連合会

北陸ブロック事務局：北陸農政局生産経営流通部農産課豆類振興係(076-263-2161 内線3318)

各県事務局：新潟県 農林水産部 農産園芸課 (025-280-5296)

富山県 農林水産部 農産食品課 (076-444-3283)

石川県米麦改良協会 [JA全農石川県本部米穀課内] (076-240-5335)

JA福井県経済連 指導販売部 生産指導課 (0776-27-8256)

## 【レポート】

### 北陸農政局「消費者の部屋」展示について

平成22年11月15日から26日にかけて、広坂合同庁舎（石川県金沢市香林坊2-2-60）1階の、北陸農政局「消費者の部屋」において、「北陸産麦・大豆でヘルシーな毎日！」と題して展示を行いました。

見ていただく方によりわかりやすいように、パネルとパンフレットだけではなく、畑から土付きで抜いてきた収穫期の大豆や大麦、職員の協力により集めた国産（特に北陸各県産）原料を使用した加工食品（の容器）を展示しました。見に来られた方は、「この豆腐は見たことある～石川県産大豆を使ってるんや。」などと話しておられました。このように地元産原料を使った商品を紹介することで消費者の皆様にもっと意識していただいて、毎日のお買い物の際に、少しでも地元産原料を使用した加工食品を選んでいただけたらいいなと思いました。

期間中には、350名の方に来場いただきました。ご来場くださいました皆様、ありがとうございました。



【全景 1】



【全景 2】



【全景 3】



【国産（特に北陸各県産）大豆を原料とした加工食品】



【国産（特に北陸各県産）大麦を原料とした加工食品】



【北陸で主に栽培されている大豆・大麦の品種の紹介】



【いつも人気のレシピ集】



【大豆の草姿を知っていただくために、土ごと掘り上げて展示した収穫期の大豆】



【(左) 茎、莢、実に分解した一株の大豆。  
(右) 土を洗い落として根が見えるようにした大豆。  
根粒についての説明も付けました。】